

国際シンポジウム INTERPRAEVENT2018

～ 変動帯における大規模な土砂災害と減災対策～

環太平洋インタープリメント協議会
インタープリメント 2018 実行委員会

期 日：平成 30（2018）年 10 月 1 日（月）～4 日（木）

開催地：富山県富山市（会場：富山国際会議場）

主 催：インタープリメント 2018 実行委員会、環太平洋インタープリメント協議会

共 催：International Research Society INTERPRAEVENT、

（公社）砂防学会、（一社）国際砂防協会

後 援：国土交通省、富山県

協 賛：（一社）全国治水砂防協会、（一財）砂防・地すべり技術センター、

（一財）砂防フロンティア整備推進機構、（一社）斜面防災対策技術協会

目 的：

環太平洋地域では火山活動、地震に起因する変動帯特有の災害が多発している。これに加えて近年では、気候変動の影響による集中豪雨や大型台風によって大規模な土砂災害が頻発している。変動帯に暮らす人びとは、これらの土砂災害を緩和しつつ共存していかねばならず、このような地域で長年に亘り培われてきた災害軽減技術はまさに世界に残すべき人類遺産ともいえる。

特に、富山県は、災害軽減技術の結晶とも言える歴史的な施設が多数存在している地域であり、その歴史的成果を世界の技術者、研究者、行政関係者、教育関係者が土砂災害への関心を持つ一般市民とともに討議するとともに、技術の検証、開発、継承、国民への啓発、普及、災害リスク管理等の意義を積極的に世界に発信していくことが極めて重要である。富山県では、1858 年の大地震により数億 m³の山体崩壊が河道を閉塞して天然ダムを形成し、その欠壊により流出した土砂が下流の富山平野に壊滅的な被害をもたらした。それ以降 110 年にわたりこれらの土砂を安定させる砂防工事が進められ、現在では安全で実り豊かな田園都市となっている。この富山平野において、2018 年 10 月に「インタープリメント 2018」を開催するものである。



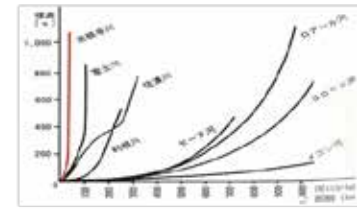
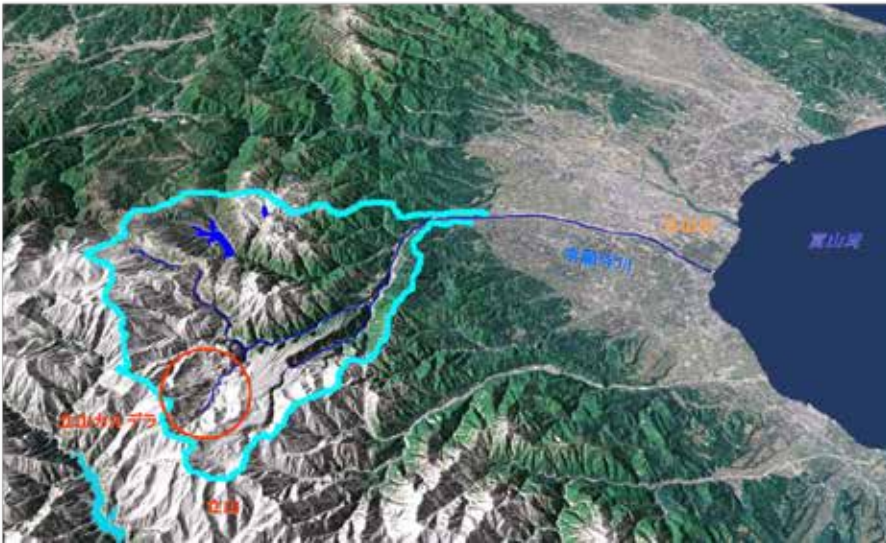
海越の立山連峰



立山カルデラ全景

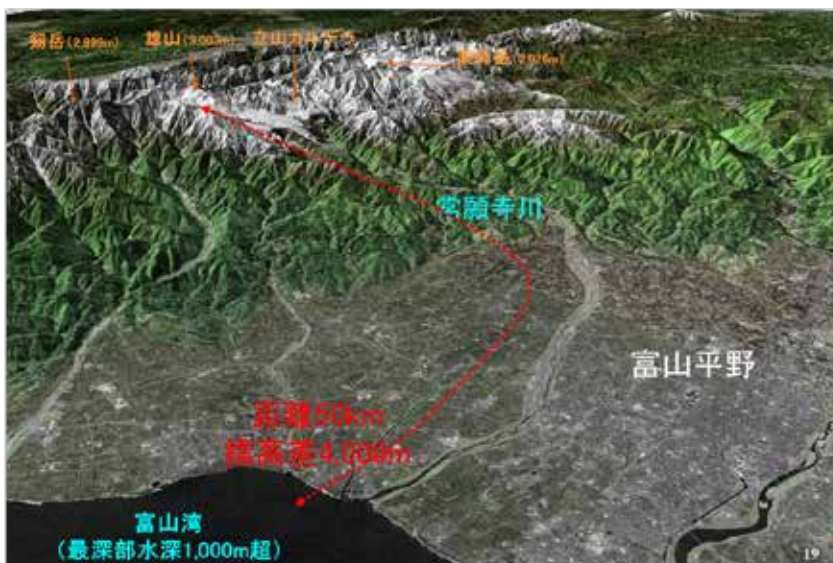
富山の地形と常願寺川の概要

- ・富山県の年間降水量: 2600mm
- ・急流河川であり、上流に大崩壊地、立山カルデラを持つ

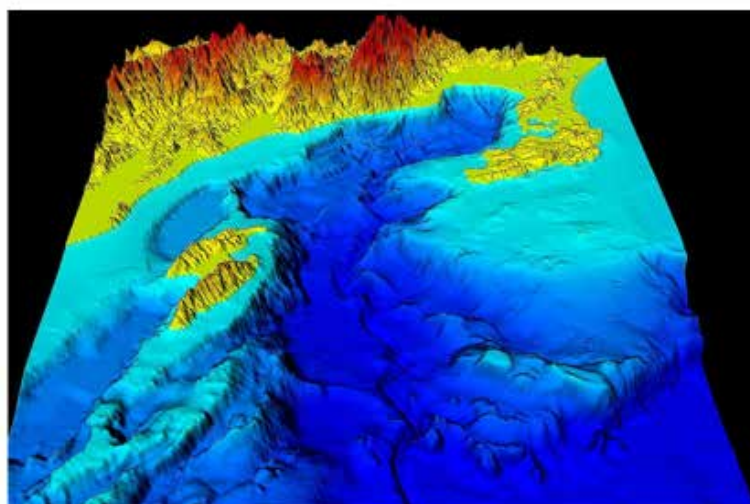
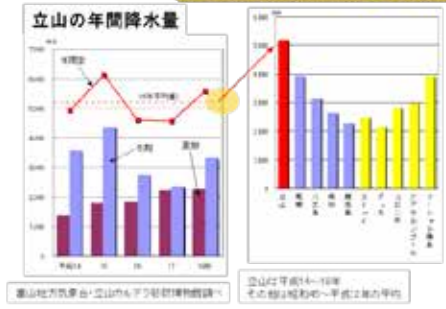


18) 富山の地形と立山の降水量

50kmの距離に4,000mの標高差がある独特の地形



最大年間6,000mm超の降水



提出されたアブストラクトから選出された論文に関するポスターは、10月1日(月)2日(火)の2日間展示されます。2日の午後にコアタイムが設定されています。

パネルディスカッション：

極端な気象現象ならびに変動帯特有の火山・地震によって引き起こされた大規模な土砂災害と闘ってきた人間の技術、歴史的砂防施設及び歴史的な土地利用規制の評価と今後の活用に焦点を当て、災害の特徴や対策施設の計画、効果評価、長寿命化等について、総合的な議論を行います。

現地視察研修：

1858年の飛越大地震により発生した山体崩壊、河道閉塞により発生した土砂災害とその後の対策の現地視察を実施する他、同伴者を対象とする黒部渓谷などを巡る研修を実施します。

トピックス：

このシンポジウムの中心課題である「変動帯における大規模な土砂災害と減災対策」は、以下の6つのカテゴリーに大別されています。

1. 現地調査、解析、モデリング
地質学、地形学もしくは水文学的な背景
発生過程や挙動に関する特徴
地図化とモデル化のためのリモートセンシング、GPS、GISの技術 等
2. 大規模災害
大規模災害の発生メカニズム
火山活動に伴う大規模災害
大規模災害への備えと緊急対応 等
3. ハード対策とその効果
効果的な施設の設計手法と配置計画
環境や生態系への影響を配慮した工法
施設の維持管理
施設の副次的な利用 等
4. 歴史的砂防施設及び歴史的な土地利用規制の評価と今後の活用
歴史的砂防施設の実例
災害常襲地帯において歴史的に規制している事例
現在における効果の評価と環境への影響
先人の知恵を活かした歴史的地域防災計画適用の事例
施設の維持管理と活用策 等
ここで「歴史的」とは50年以上経過しているものをさす。
5. 危機管理とソフト対策
先進的な監視技術と警報システム
危険度評価のための手法と手順
災害危険地の区分と図化
減災に向けた防災教育と地域の取り組み 等
6. 持続可能な土地利用のための管理
急傾斜地における土地利用の実状と課題
持続可能な土地利用のための先進的な計画手法
持続可能な土地利用のための管理手法
災害軽減のための法制度 等

口頭発表・ポスター発表の投稿について：

研究発表の本論文は CD-ROM に記録し、要旨集とともにシンポジウム当日に配布する予定です。
研究発表は口頭発表あるいはポスター発表とします。

口頭発表あるいはポスター発表希望者は事前に発表要旨 (A4 サイズ 2 ページ) を実行委員会事務局に提出し、審査を受けてください。要旨が受理された場合には、本論文を投稿する権利があります。本論文についても、締め切りまでに実行委員会事務局に提出し、審査を受け、受理されれば論文集に掲載されます。

発表要旨および本論文を受理された方に対して参加事前登録後に発表許可を事務局より通知します。
投稿はオンラインで受け付けます。投稿用のウェブサイトは平成 28 年 6 月に開設予定です。
本論文の投稿要領は平成 29 年 6 月のセカンドサーキュラーでご案内します。

今後のスケジュール：

要旨投稿の開始	平成 28 年 6 月
要旨投稿の締切	平成 28 年 11 月 30 日
要旨の受理・不受理の通知	平成 29 年 5 月 30 日
セカンドサーキュラーの発行	平成 29 年 6 月
本論文投稿の締切	平成 29 年 9 月 30 日
参加事前登録の開始	平成 30 年 1 月
最終本論文 (修正後) の提出	平成 30 年 3 月 30 日
本論文の受理・不受理の通知	平成 30 年 4 月
口頭およびポスター発表の採択の決定通知	平成 30 年 6 月初旬
ファイナルサーキュラーの発行	平成 30 年 6 月
参加事前登録 (事前割引) 締切	平成 30 年 7 月 31 日
ホテル予約の締切	平成 30 年 8 月 31 日

実行委員会名簿（敬称略）

名誉顧問：	石井 隆一	富山県知事
顧問：	丸井 英明	新潟大学災害復興研究所特任教授、前インタープリメント副会長
委員長	石川 芳治	東京農工大学教授、インタープリメント副会長、 公益社団法人砂防学会理事
副委員長	丸谷 知己	北海道大学特任教授、公益社団法人砂防学会会長
委員	伊藤 和久	国土交通省北陸地方整備局河川部長
同	岡本 敦	国土交通省国土技術政策総合研究所土砂災害研究部長
同	岡本 正男	一般社団法人全国治水砂防協会理事長
同	加藤 昭悦	富山県土木部長
同	亀江 幸二	一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構理事長
同	栗原 淳一	国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課長
同	近藤 浩一	一般財団法人砂防・地すべり技術センター理事長、 一般社団法人斜面防災対策技術協会副会長
同	平松 晋也	信州大学教授、公益社団法人砂防学会理事・国際部会長
同	藤沢 和範	国立研究開発法人土木研究所土砂管理研究グループ長
同	南 哲行	環太平洋インタープリメント協議会会長、 一般社団法人国際砂防協会理事長
同	山田 孝	三重大学教授、公益社団法人砂防学会理事・編集部会長
監事	大野 宏之	一般財団法人砂防・地すべり技術センター理事、 インタープリメント理事・公益社団法人砂防学会理事・事業部会長
同	小川紀一郎	公益社団法人砂防学会副会長・経理部長

お問い合わせ先：

インタープリメント 2018 実行委員会事務局
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4
(一社) 国際砂防協会
電話：03-6380-9044 FAX: 03-3261-5449
E-mail: info@interpraevent.jp
URL: <http://interpraevent2018.jp>

会場、現地視察研修に対する問合せ
運営小委員会事務局：富山県土木部砂防課
〒930-8501 富山市新総曲輪 1-7 県庁本館 4 階
電話：076-444-3341 FAX：076-444-4420